

デルタ総研だより

interview

檜森 信孝

法人サポート部 部長



入社 13 年目の檜森信孝は、入社間もない頃に現場打ち切りという苦難の時期を経験した。その後は大規模プロジェクトを成功に導くなど活躍し、会社の中核を担うまでに躍進。現在は法人サポート部の部長として、IT インフラサービス事業の確立と拡張に取り組んでいる檜森に、普段意識していることやメンバーへの思いについて聞いた。

心に響いた社長の言葉

自身の転機となったのは入社 1～2 年目の頃だ。当時契約社員だった檜森は、ある現場で携帯電話のコアネットワークの装置の構築に携わっていた。ところが間に入っていた会社の都合で打ち切りになり、社内待機になってしまう。手持ち無沙汰になった檜森は転職も視野に入れ日々を過ご

していた。悩んでいる様子を見た社長が自分を励ましてくれた言葉は、今でも心に残っている。

「今は谷間にいるかもしれないが、檜森には今まで培った技術がある。いずれ必要となる時期は必ず来るから、このままここにいた方がいい」。

その後、待機中は技術を見直すなど研鑽に励み、ほどなくして自身が携わっていた業務とマッチングする現場が現れる。そこではお客様から高評価をいただき、プロジェクトを拡大することができた。さらに 1 年後には大手通信キャリアに出向し派遣社員として勤務し、直契約を結ぶことに成功。これにより業務が広がり、最初は一人で担当していたプロジェクトを 8 名まで人員を増やすことができた。

「大手通信キャリアへ派遣契約で行った際に、たまたま以前のプロジェクトでお世話になっていた開発担当者がいらっしやり、『じゃあうちに来い

よ』と新たな案件をくださるなど、人の縁にも恵まれました。社長の励ましのおかげで、あのとき腐らず続けてきて本当に良かったと思います」。

お客様の信頼を取り戻す

人員も増え、順調かと思われたプロジェクトチームであったが、少しの油断でつまずき、ピンチに陥った時期もあった。作業ミスや事故が重なり、お客様との信頼関係が崩壊してしまったのだ。「デルタさんは品質が悪い」とレッテルを貼られ、その結果、人員も半分に減らされてしまう。

「それまで頑張ってきたつもりでしたが、多少の甘えがあったのか自分の目の届かない部分ができてしまい、失敗が続きました。当時は何度もお客様のところに謝罪に行きました」。

一度下がった評価を元に戻すのは難しい。檜森は作業を見直し、メンバーの再教育とルールの徹底を図った。これまで曖昧だった部分をすべて明確にし、手順書の通りに作業すれば間違いないという状態にした。加えて、イレギュラーな件があればすぐに報告するようにも徹底。お客様に満足していただくために、要望には120%の勢いで応えるよう意識づけた。どん底の状態から2年。地道な努力でミスを撲滅し、信頼を回復していった檜森のチームは、再びメンバーも8名に増えた。1年間無事故でやってこられた点を評価され、お客様の安全大会で発表するまでに品質を回復することができたのである。

風通しの良い組織を作る

檜森が部長としてメンバーを率いる上で最も大切にしているのは、コミュニケーションを取ることだ。仕事の相談から趣味の話、人生相談まで、とにかく話しやすい雰囲気を作るよう心がけている。話を聞くときは相手の気持ちを尊重し、否定

せずに相手の立場に立って話をする。

「若手社員は臆せず、やりたいことをどんどんと提案して、思いをぶつけてほしいと思います。これからは若い人が中心になっていくべき。中堅以上の社員は今まで培ってきた技術を若手に惜しみなく伝え、部署全体の底上げを目指しましょう」。

さまざまな提案を受け入れ、形にするのが部長の仕事。檜森は何かあったら自分が全部責任を取るという思いで受け止めたいと考えている。

会社の発展のために

会社はもともとネットワーク構築の分野が弱かったが、檜森が通信キャリア事業者の大規模ネットワークの設計、構築業務の立ち上げ、安定稼働までの道筋をつけた。今後も自身の経験を活かして、さらにネットワーク構築の分野を広げたいという思いがある。

現在は法人サポート部の部長として、ITインフラサービス事業の確立を担う。社員数、売り上げともに存在感のある部署であることを意識し、部署の運営に努めている。

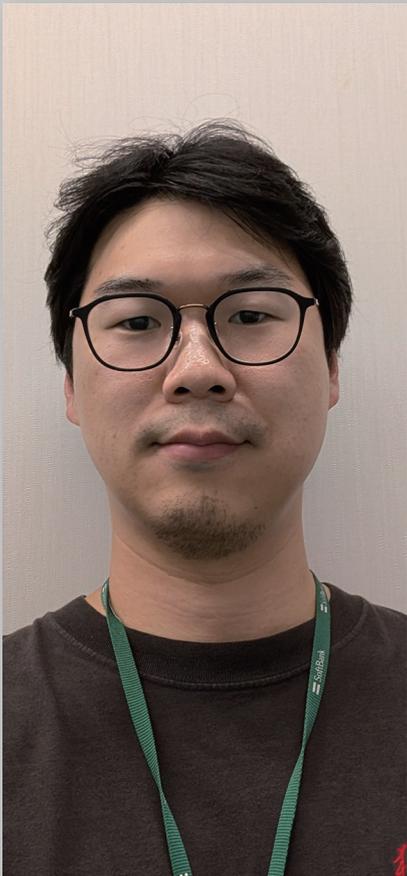
「さらに大きくして、会社の中核として機能するような部署を目指したいと思っています」。

檜森はこれからもメンバーとともに、力強く株式会社デルタ総研の未来を切り拓いていくことだろう。



未経験から掴んだリーダーの道

未経験からスタートし、今ではチームを率いるリーダーとして活躍されている崔さん。IT化の波をチャンスに変え、新たなキャリアを築いた崔さんの挑戦の軌跡と、今後の目標に迫ります。



さい えいじゅん
モバイルシステム部 課長代理 崔 栄淳さん

未経験からIT業界に挑戦したきっかけ

人の役割が激減！未来を見据え、新たな挑戦へ

私は28歳頃までテレビ業界に勤めており、その後、約8か月の海外留学を経験。日本に戻ってからは、不動産業界で働いていました。しかし、不動産業界もIT化が進み、私が主に担当していた賃貸業務は「人」が担う役割が激減するとの話も。それがきっかけとなり、未来を見据え、IT業界への挑戦を決意しました。入社を決め手となったのは、未経験者を積極的に採用していたところ。さらに、給与面なども明確に提示してくださり、他社と比べても非常にオープンな対応をしてくれたことで、安心して入社できました。

現在に至るまでの経緯

ピンチはチャンス！メンバーの一員からチームリーダーへ

入社して最初の担当はコアネットワークの現場。未経験の私は、非常に優秀な先輩とペアになり業務を行っていました。今振り返ると、「もっとわからないことを質問すれば良かった」という反省もありますが、このときはついていくのに必死でした。その後、担当現場が変わるタイミングで先輩は他の現場へ、私は1人でプロジェクトに加わることに……。最初はメンバーの一員として働いていましたが、当初のチームリーダーはコアネットワークが未経験。経験のある私がリーダーに就任することになりました。

チームリーダーとしての課題とやりがい

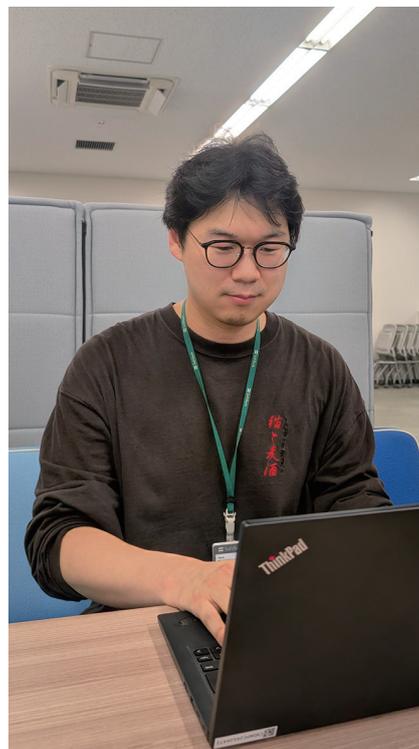
チームを導くリーダーの葛藤と、お客様からの信頼

何でも気軽に相談できるあたたかい雰囲気ของทีมを目指していますが、ミスが起きてしまったとき、指導をするのはチームリーダーの務め。自分の怒りをただぶつけるための「怒り」と、相手を思いやり指導をする「叱り」の境界線は曖昧であり、日々勉強中です。やりがいを感じるのは、プロジェクトを進める中で、お客様から「ここから先の業務は崔さん主導をお願いします」と言っていたとき。信頼を得られていると実感し、嬉しく思います。

会社の魅力と今後の目標

可能性は無限大！会社の未来を見据える立場に

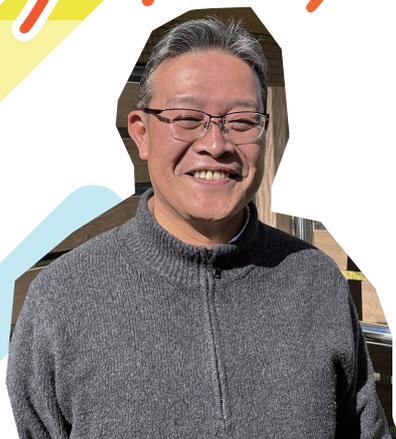
未経験者を含め、誰でも様々なことにチャレンジできる環境が当社の魅力。社長との距離も近く、定期的に「最近どう？」と電話をしてくれることもあります。また、給与面においても基準が明確化されており、オープンに提示してくれるところも会社の信頼に繋がっているのではないのでしょうか。私は2025年5月から課長代理の役割を担っているため、専門的な分野であるコアネットワークの知識を深めつつ、経営陣の1人として会社が向かう未来も意識しながら、視野を広げていきたいと思っています。



求職者の皆さんへ
メッセージ

第一歩を踏み出しやすい現場を揃えているのがデルタ総研。未経験だからとマイナスに捉えることなく、未経験だからこそ！というプラスの気持ちで、積極的に挑戦してほしいと思います。

充実！ デルタ総研の教育制度



調達部 部長
みやした ひろたか
宮下 宏隆さん

当社は、新入社員一人ひとりがプロフェッショナルへと成長するための、多角的な教育プログラムが充実していることが自慢です。「客先での対応が苦手」「対人関係で疲れてしまう」など、多くの新人が直面する課題に対し、「問題整理力」と「問題解決力」を養う実践的な研修で応えます！今回は、次代を担う人材を育む研修の全容とその想いを、宮下部長に伺いました。

新人教育における目指す姿

社会人基礎力と突破力で確かな一歩を！

若年層の新入社員が多いため、まずは社会人基礎力を身につけてもらうことを目指します。また、近年では客先での振る舞いに悩んだり、人間関係に疲弊したり、という社員が増えています。そのため、「問題整理力」「問題解決力」を高めることで、困難を乗り越える力を身につけていただくことも大きな目標の1つです。

研修内容を一部ご紹介！

問題整理力・解決力の向上

「QC手法」を使って問題を分析して原因を突き止める力、レポートを通じて伝える力を養えるようなカリキュラムになっています。

IT基礎教育

社長自らがコンピューターやスマートフォン、ネットワークやサーバーの仕組みなど、IT業界で働く上で欠かせない知識を教えてくださいます。今後の業界の動向なども話していただくため、自身の将来像も思い描きやすくなることでしょう。

eラーニングの活用と自主性の育成

自身で計画を立て、スケジュールを管理し、進捗報告をするなど、eラーニングを通じて、ビジネスパーソンとして必要なスキルを身につけてもらうことが狙いです。

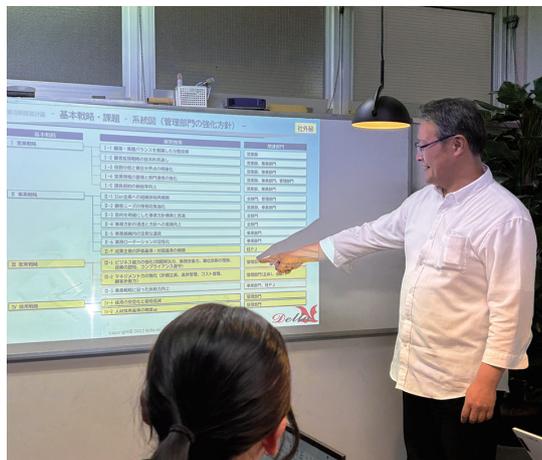
コンプライアンス研修の徹底

ベテラン社員でも意外と理解していない労働基準法や社会保険、ハラスメントについてなど、働く上で大切な事柄もお伝えしています。法令を遵守できる社会人に育ててほしいと思っています。

講師として感じるやりがい

瞳の輝きは、無限の可能性。
共に成長し、未来を拓く力を

新たな知識を得たり、会社が社員にける思いを聞いたりしたときなど、研修生の目が輝き、より一層モチベーションが高まったと感じる瞬間があります。「こんなに真剣に受講してくれているのだから、もっと良い研修をしなければ！」と私自身、向上心がかき立てられます。



メッセージ

経験のバトンで、
若手社員の可能性を全力応援！

若手時代はたくさんの壁が目の前に立ちふさがり、大変苦労することでしょう。私もそうでした。そのため、私が経験したことを一つでも多く伝えることで、お役に立てれば嬉しく思います。そして、最終的な目標は、業界問わず活躍できる人材になっていただくことです。これからも内容をブラッシュアップしながら、より良い研修を目指していきたいと思っています。